



2025年4月1日発行 (毎月1日・1回発行) 1988年1月27日第3種郵便物認可 定価50円 発行/公益財団法人横浜YMCA 広報センター 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 Tel. 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS 4

地域や社会の課題に取り組む 「VISION 2034」第2期中期計画



横浜YMCAは、創立150周年(2034年)に向け、「VISION 2034」を策定し、2021年から3年間を1期、2024年から3年間を2期として取り組んでいます。2024年10月に、創立140周年を迎えた横浜YMCAは、社会や地域の課題に向けて行動し続け、地域や社会がより良くなり、公正で平和な社会を創る取り組みを展開するために、これまでの計画を評価・精査し、2025年4月から「VISION 2034」第2期中期計画の2年目として取り組んでいきます。

私たちは、これまで社会の変化を捉えながら、それぞれの時代で起こる社会課題に向き合い、課題解決のために多くの方々とともに折り、取り組んでいます。

「横浜YMCA」私たちの使命に示された平和な社会を創り出すためには、まだ達成出来ない課題が存在することに私たちは気づかされています。

そのような未達成の課題を整理し、さらに「横浜YMCA」私たちの使命を具現化していくために、横浜YMCAでは、2021年4月から将来計画として「VISION 2034」を策定し、横浜YMCA

A創立150周年を迎える2034年にならぬような社会になっていかを考えた。そのための取り組みを進めています。2021年4月から2024年3月までの3年間の第1期中期計画では、これまで8領域24項目の目標を掲げ取り組んできました。時代の変化や計画の評価を行い、2024年4月から2027年3月までを第2期中期計画として、2025年に2年目を迎え、8領域16の重点項目を各事業・各館をはじめすべての活動で2027年3月の2期最終年を迎える中間年として取り組みます。



▲地域や社会の課題に向けての取り組みを進め、平和につながる働きと担い手を育む

社会の変化に対応し、保育事業においては保育の枠を超えて、地域の子育て支援や地域との交流の場づくりなどの多機能化、専門学校事業においては留学生の可能性をさらに広げ、健康教育事業は、介護予防をポジティブに捉え、健康寿命の延伸による労働人口の長寿化と社会保険料負担の減額という、社会問題の解決に向け貢献する取り組み、公益的な働きを目指していきます。さらに、今、平和の実現に取り組まなければなりません。生きることが脅かされている人たちがいることを意識し、YMCAのある各地域で、YMCAの行うそれぞれの働きの中で平和をつくり出す人を育てていきます。

VISION 2034 横浜YMCA創立150周年に向けた将来計画 第2期中期3カ年計画

基本方針1 FOR HEALTHY LIVING

一人ひとりの存在が大切にされる平和な世界に向けて、すべての人の「Spirit」「Mind」「Body」が豊かに育まれ、自ら「Quality of Life」を向上させていくために

「子育てと子育て」「生活のクオリティの向上」

- 1)すべての子ども・ユースの豊かな成長を支える機会と環境の充実
 - ①すべての子ども・ユースの今と未来を育むための体験・学びの活動を提供する。
 - ②BAPY(子ども支援)基金などによって生活困窮家庭の子ども・ユースの体験格差解消を図る。
- 2)地域力を高め、子育てを地域で支えるプログラムの開発
 - ③家族のつながりを生み出すプログラムの充実を図る。
 - ④地域とともに、多様化する家族に必要な支援を継続的に取り組む。
- 3)健康づくりの機会と環境の充実
 - ⑤中高年層にスポーツや学びの機会を提供し、生活習慣の改善や健康維持を促進する。
 - ⑥中高年層が持つ知識や経験を活かした社会参加活動の機会提供を促進する。
- 4)一人ひとりのライフステージを地域で支え合う
 - ⑦地域の諸団体と連携し、高齢化で生じる課題への取り組みを促進する。
 - ⑧高齢者の心身の健康づくりと社会的孤立の解消を目的に交流の場、居場所を提供する。

基本方針2 FOR YOUTH DEVELOPMENT

公正で平和な世界に向けて、ユースが自らの能力を最大限に発揮し、主体的かつ積極的な貢献によって社会を変革し続けるために

「ユースエンパワーメント」

- 5)ユースの能力を最大限に発揮するためのユース育成
 - ⑨ユースがYMCAに集い、社会課題と向き合う機会を提供する。
 - ⑩異なる背景を持つ人との交流や経験を通じ、多様な価値観や文化に出会える機会を充実する。
- 6)ユースの主体的・積極的な活動をサポートする環境の充実
 - ⑪YMCAの基金や募金を活用し、ユースの主体的な活動に対する支援の充実を図る。
 - ⑫YMCA運動を共に推進するユースレイバーの更なる増強を図る。

基本方針3 FOR SOCIAL RESPONSIBILITY

自然と人の生命が尊ばれる平和な世界に向けて、人と社会と地球との調和のとれた持続可能な社会を実現するために

「社会に貢献」

- 7)持続可能な社会と地球共生社会への理解と取り組み
 - ⑬環境負荷軽減への行動促進、そして一人ひとりの意識変革と行動変容を促進する。
 - ⑭さまざまな国や地域の人びととつながり、歴史や文化に触れる機会と場を提供する。
- 8)社会課題を共に担うパートナーとの連携強化
 - ⑮会員へのサービスと満足度向上を図り、YMCA会員の入会・継続を促進する。
 - ⑯ワイズメンズクラブや諸団体・企業との連携・協働を促進する。

ホドス

最近、わたしの日々の楽しみの一つはエリカさんという方が著した「TODAY IS A NEW DAY」の本を見ることである。その本には、365日、エリカさんがニューヨークの風景を写真に写したものに、日々エリカさんが感じた短い言葉、あるいはニューヨーク滞在中に知った言葉が記されている。ある日の言葉は「優しさとは、耳の聞こえない人も聞くことができ、目の見えない人も見ることが出来る言葉。」とあった。この言葉はマーク・トウエインという小説家の言葉だとのこと。短い言葉だが深く考えさせられる言葉だった▼その時、ふと、かつて東京で開かれたジャン・パニエさんの講演会に行った時の光景を思い出していた。パニエさんは、その講演会が始まる時、車いすに乗った女性の所に行き、彼女を抱いて言われた。なんと美しい言葉を見せてくれていたのかと。彼女は、耳が聞こえないので、手話で聞いている方であった。このパニエさんの行動にその日のパニエさんの講演の内容が全部詰まっていると思った。パニエさんは、フランスの片田舎の小さな家で「ラルシュ」というコミュニケーションを起こした方である▼「ラルシュ」とは、「箱舟」という意味である。パニエさんの起こした障がいのある人とともに住む「ラルシュ」は今世界に静かに広がっている。パニエさんは言う。「貧しい人びとは預言的な存在である」と。今の世界が見落としている課題が、ラルシュの歩みに見えていると思う (ま)

YMCA NETWORK NEWS

横浜 ピンクシャツデー 自分事に取り組み

横浜YMCAでは2007年にカナダの学生2人から始まった世界的ないじめ反対運動に賛同し、ピンクシャツデーの取り組みを行った。

2月26日のピンクシャツデーには、各YMCAが取り組んだ。横浜中央YMCA放課後児童クラブでは、リーダーが子どもたちに、絵本「みんなのヘロニカ」(電話館出版)の読み聞かせを通して、自分だったらどのような声かけや行動ができるかを考えた。



また、佐竹博横浜YMCA総主事、山添訓本部署事務局長が委員を務める神奈川県や横浜市、地域の企業や団体などで主催するピンクシャツデー2025 in 神奈川県では、同日に新都市プラザ(横浜駅東口)にてパネル展示などを行ったほか、神奈川県庁や横浜市庁舎など県内22カ所がピンク色にライトアップされ地域の企業や団体とともにピンクシャツデーに取り組んだ。

ヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン 楽しく運動に取り組み健やかな成長目指す 特別講演会 森岡隆三氏から 子どもたちの生きる力の育み方学ぶ



横浜YMCAでは、子どもや家族が健康づくりにについて考え、生活の改善や運動を習慣化し継続するきっかけづくりとして「横浜YMCAヘルシーキッズ&ファミリーキャン

Topics 140years of HISTORY 横浜北YMCA地域社会形成の核に vol.13

1976年に、これまでの横浜YMCAの職業教育・スポーツ振興に対する活動が認められて「横浜文化賞」を横浜市から授与されました。

同年の4月からは、4つ目のセンターとして菊名センターを当時港北ニュータウンの開発計画のあった港北区に、地元の人を中心に運営委員会を編成し、菊名町コーシンマンション2階60㎡を借りて開設しました。急激な都市化による地域社会の分断・拡散されている状況の中でYMCAを新しいコミュニティの場として、そこから人びとが地域社会形成への核となる活力を得て、送り出されていくことを目指し開設しました。少年サッカーをはじめ、野外活動、小学生の英語、中学生の学習などの子どもたちを対象とするプログラムを実施しました。

菊名センターの隣地を購入し、プールと教室のある横浜YMCAとしての初の中規模施設として1977年4月に「横浜北YMCA」が開設しました。この建物には田中忠雄画伯による「種を蒔く人」の彫せん画がプールの壁に描かれました。これ以降、各YMCAのプールにはキリスト教のメッセージを伝える壁画が描かれることになりました。開館記念プログラムとして15日に、松原治郎東京大学助教授の「新しい地域形成とボランティア活動」、22日に福田垂穂明治学院大学社会学部教授の「地域社会における青少年活動」の講演が行われ、横浜YMCAの目指す新しいコミュニティ形成の意義が語られました。



横浜北YMCA(1977年)▲



▲各自が目標を書いた森岡氏直筆のサイン入り色紙を持って意気込みあふれる皆さん
▲右上)講演で自身の経験を語る森岡氏

ンペーン」を4月1日から5月31日までの2カ月にわたり開催する。神奈川県では、すべての世代が未病を自分のこととして考え「食・運動・社会参加」の3つを柱とする未病改善に取り組むことを進めている。またその一つとして「子どもの未病対策」では、子どもの頃からの正しい生活習慣を身に付けることが大切であるといわれている。

横浜YMCAでは、子どもたちが楽しく、安心して運動を体験し、食にも関心を持ち、異年齢の子どもたちとの交流を深める機会の場を提供し、継続した取り組みにより生活習慣や未病改善につなげようと「横浜YMCAヘルシーキッズ&ファミリーキャンペーン」を県内にある横浜中央、横浜北、湘南とつが、藤沢、厚木、川崎、金沢八景、山手台の8つのYMCA健康教育事業を中心に保育園、学童クラブなどのアフタースクールにおいて展開する。

キャンペーンに先立ち、3月2日には、湘南とつがYMCAにて森岡隆三氏(元サッカー日本代表)を招き「サッカー少年が夢を追いかけた得たもの」をテーマとして特別講演会を実施した。森岡氏はこれまでの経験から子どもを育むことや子育てする上で、とくに目標を立てることの大切さを語った。参加者に森岡氏のサイン入り色紙を配布し、それぞれが達成したい目標を記入し

広島・長崎・沖縄・横須賀のユースと 多世代がともに戦争や平和を学んだ



▲ユースのパネリストから戦争や平和について学んだ

横須賀YMCAでは、多世代がともに平和を考える勉強会「戦争をジブンゴトにする」として、広島、長崎、沖縄、横須賀から問う(横須賀YMCA運営委員会・一般社団法人かたわら共催)をテーマに2月15日に横須賀市産業交流プラザ交流サロンにて開催した。

勉強会ではユース世代を中心に、戦争や平和についてジブンゴトとして考える機会をもととして、1部パネリストによる報告、2部グループディスカッション、3部グラフィックレコーディングによる全体共有が行われた。広島高橋悠太さん(一般社団法人かたわら代

表理事)、長崎藤田裕佳さん(二橋大学大学院Reverse The Trend Japan代表)、沖縄狩俣日姫さん(株式会社さびら平和教育ファシリテーター)、沖繩仲本和さん(平和学習講師)、横須賀高井陽一朗横浜YMCAスタッフが登壇し、それぞれが地域の戦争をどのようにジブンゴトにするか、原爆や戦争についての考えを述べた。グループワークでは参加者45人が6グループに分かれ意見交換し、最後にグラフィックレコードで進行のまとめを可視化し会場全体で共有した。(詳細はQRコードご参照)

の再会をともに喜んだ。4月から行うキャンペーンでは、水泳や体操の体験や親子や家族で一緒にできるプログラムを実施し、子どもや家族の健康づくりの機会につなげていく。詳細はHPや各YMCAへ。

ポジティブネットをひろげよう
~今月のよくなる一歩~
みつけよう
しょうらい 未来の道
しょうらい みち ひら 将来の道を拓こう
(Responsibility 責任感)

♪子育てランド♪ 春バテ防止しましょう

春は1年の中で最も気温の変化が大きく、保育園や学校、職場など新しい環境ではうれしい気持ちと緊張が混ざって疲れが出やすい時です。生活リズムを整え、食事をしっかり摂り、春バテを防止しましょう。
生活リズムを整えるポイントは「時間」「場所」「人」が定まっていることです。新年度は、この3つのバランスが崩れ、食欲低下を起こしがちです。こういう時は栄養価の高い旬の食材がおすすめです。春きゃべつ、新にんじん、新たまねぎなど甘みの強い野菜はいかがですか。

野菜が苦手な子どもたちも「この子は野菜が嫌い」ではなく「まだ食べられるようになっていない」と考えて、毎日テーブルに出すことが大事です。一緒に食事を囲む家族の団らんが心の健康を保つにも有効と言われています。家族そろって食事を楽しむ時間もあると良いです。
春はウドやフキ、セロリ、新ごぼうなど苦味を楽しむ野菜もあります。冬を越えて栄養満点になった野菜をおいしく食べて春バテをしないように整えてみませんか。
(YMCAとつが乳児保育園 栄養士 鈴木栄里依)

横浜 YLEETで学び リーダー感謝会も

横浜YMCAでは、2月に三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジにて、岡田麻唯氏(大学・専門学校にて異文化コミュニケーション担当)を講師に招き「YLEETで新しい自分を見つけて新たな可能性につなげよう」をテーマにリーダー研修会を実施した。参加したリーダー42人が自己理解と他者理解を深めた。



期間中にはコースリーダー感謝会、コースリーダー感謝会、開発事業委員会主催が行われ、古賀健郎、ワズメンズクラブ、湘南・沖縄部、ユース事業主、伊藤直樹、ユースリーダーシップ開発事業委員長が感謝の言葉を述べ、佐竹博総理事から感謝状が入り手に手渡された。

厚木YMCAが開設40周年を迎え 会員や専門学校卒業生・リーダーとともに祝う 横浜YMCA初の県央地区拠点として 地域や社会に仕える働きを続ける



▲地域や社会に貢献し続けてほしいとメッセージを語った宮井牧師

横浜YMCA創立100周年記念事業として、1985年に横浜YMCAとしては初めて県央地区に厚木YMCA(厚木YMCA青少年センター)を開設した。2月24日



「どれくらい眠れぬ夜を越え止まない雨に打たれ大人になつたらう?」「君よ次代に向けて愛を謳って欲しい」「人を敬いながらいつも守って欲しい」
災害などで思わぬ苦難の中にいる地域・人びとに向けたという曲の歌詞の一部です。すべてにやさしい気持ちと寄り添う気持ちが込められ、歌声とともに心に響きます。歌詞の中に2度「リニューアンスカメ」と登場する言葉があります。歌詞を見れば、本コラムのタイトルにある4字熟語でした。諸説あるようですが「山が幾重にも重なりあい、川がまがりくねって、この先の路は行き止りかと思っている」と、ほの暗く生い茂った柳の

ひとかき

柳暗花明

総主事 佐竹 博

向こうに色鮮やかな桃の花に囲まれた村が目の前にあらわれたという中国漢詩に出展があるようです。暗闇を抜けるとその先に道が開けるといふ希望の意味と

善い言葉を語る者としてくださるように。(テサロニケの信徒への手紙II 2章17節)で祈りの言葉です。今の社会に、希望を見出しづらく、ふさいでいる人がいたら励ましたい。良い方向に進んでいらないとあきらめなくなるような社会にあって人間力を信じ、希望を持ちたい。自分一人が行動しても、と無力感を感じている人には、志を同じくする人がともにいることを伝えたい。

YMCAに関わる皆さん、この祈りの言葉に励まされ、働きを信じ、社会に地域に人びとに仕える働きを続けていけるように、この言葉を大切にこの1年間を歩みましょう。

FLASH NEWS

聖光学院中学校高等学校吹奏楽部が昨年12月13日に行ったチャリティーコンサートにおいて横浜YMCAが支援しているバンコクYMCAパヤオセンターおよびプロジェクト・ア・チャイルドへの募金の呼びかけが行われた。寄せられた188,789円の募金は、2月27日に吹奏楽部を代表し趙前部長と顧問の先生が横浜YMCAを訪れ、佐竹博横浜YMCA総主事に手渡された。聖光学院では学園祭におけるパヤオクラフトの販売やグローバル・スターツアーinタイへの参加などバンコクYMCAへの継続した支援が行われており、佐竹博総主事が感謝の言葉を述べた。



YMCA東とつか保育園では、地域活動の一環として2月22日にYMCA東とつかセンターにて「子ども食堂」を開催した。子どもと大人がカレーライスを食べながら、ボランティアによる演奏を楽しんだ。運営には学生ボランティア6人も関わった。このプログラムは国際・地域協力募金の適用プログラムとして行われた。

ワイズ コーナー 自転車1台分を皆で募金 金沢八景ワイズメンズクラブ

2月例会時に、金沢八景YMCA学童スタッフの油井裕華さんから、横浜YMCAとバンコクYMCAで人身売買予防シェルターであるYMCAパヤオセンターの運営を行っている施設を実際に訪れた報告がありました。そこで暮らす人身売買の危機にある子どもたちやエイズによって両親を失った孤児、教育を受けられない山岳少数民族出身の子どもたちと触れ合い、通学するための自転車購入のための募金を呼びかけているという説明がありました。彼女の熱い想いに共感し、その場で自転車1台分の募金をしました。そんな熱い奉仕の心を持つ金沢八景ワイズメンズクラブです。(金沢八景ワイズメンズクラブ会長 高橋のりみ)



▲基金に賛同しコンサートを行った演奏家の皆さん



▲ゴルフを楽しみながら基金の支援にご協力いただいた

横浜キリスト教青年会会則第19条に基づき、2025年度横浜YMCA会員総会が5月31日(土)に湘南とつかYMCAとオンラインにて開催される。これに先立ち3月11日に行われた総会準備委員会において岡戸良子委員長が選任され準備を進めていく。会員総会では、2024年度の横浜YMCAの事業、決算報告のほか、2025年度の事業計画・方針、予算案について協議、常議員の選出、会員表彰が行われる。

には厚木YMCA開設40周年記念礼拝・感謝会が行われた。第一部では、オープニングアクティビティーとしてドラムサークルが行われ、参加者全員がひとつの円になって中央に向かって座り、太鼓や木琴、トーンチャイムなどの楽器を飯田和子ドラムサークルファシリテーターのガイドで音を奏でアンサンブルを作ることによって一体感とリラクスの時となった。

2部の礼拝では宮井岳彦牧師(カンバーランド長老キリスト教会高座教会)が「この地で、これからの」を題に最後の晩餐をスライドで映し出し、共に食すこと、共に働くことの意味を語り「一人ひとりの賜物を活かしてYMCAを通して地域や社会に貢献していきましょう」とメッセージがあった。3部の感謝会では、佐藤節子厚木YMCA運営委員長が多くの方の40年間の支えに感謝の言葉を述べ、この先も厚木YMCAの歩みが続けていきましよう」と述べた。その後、40年の歩みを振り返るスライドショーを参加者128人が楽しんだ。長きにわたりサポートいただいた4団体と永続会員の表彰が行われ感謝の

意を表した。最後に佐竹博総主事は多くの支えに感謝し、「地域や社会に仕える働きを続けていきたいと思います」と述べた。

「地域や社会に仕える働きを続けていきたいと思います」と述べた。リ倶楽部東コースにて「第10回チャリティーゴルフ」(工藤誠一大会会長)を開催した。大会には賛助企業、関係企業・団体、維持会員、ワイズメンズクラブなどから78人が参加し、山下博之さん、浅葉糸香さんが男女でそれぞれ優勝した。参加者には大会趣旨に賛同してくださった32の企業や個人からの協賛品が抽選でそれぞれに手渡された。寄せられた58万7080円(チャリティーホール含む)が基金として用いられる。

今年度会員総会 5月31日(土)開催

横浜キリスト教青年会会則第19条に基づき、2025年度横浜YMCA会員総会が5月31日(土)に湘南とつかYMCAとオンラインにて開催される。これに先立ち3月11日に行われた総会準備委員会において岡戸良子委員長が選任され準備を進めていく。会員総会では、2024年度の横浜YMCAの事業、決算報告のほか、2025年度の事業計画・方針、予算案について協議、常議員の選出、会員表彰が行われる。

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワグサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワグサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■イングリッシュセミナー

日時 4月18日(金)午前10時~正午
 会場 鎌倉YMCA・オンライン(Zoom)
 テーマ What makes Brazil, Brazil
 ゲスト Yasmin Abdalla Shaaban さん(ブラジル)
 参加費 会員1,200円、一般1,500円
 申込み kamakura_info@yokohamaymca.org
 問合せ 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 ○ブラジルの文化や伝統などについて一緒に学んでみませんか。

イベント

■ダイナミックサマー inバンクーバー Camp Elphinstone

日時 8月1日(金)~10日(日)10日間
 訪問先 カナダ・バンクーバー
 対象 小学校3年生~高校生1年生(15歳以下)
 参加費 プログラム研修参加費(YMCA手配)420,000円、旅行代金・渡航手続関連費用(旅行会社手配)225,000円(燃油サーチャージ60,710円/2024年12月19日時点、eTA登録申請費用は含まれません)

説明会 オンライン 4月3日(木)・16日(水)・24日(木)・5月8日(木)午後6時~8時
 QRコードからお申し込みください。

詳細 http://bit.ly/41ALV0L
 問合せ 湘南とつかYMCA 英語学校 Tel 045-864-4768

○カナダ・バンクーバーの夏の英語キャンプを通して成長を感じられる夏にしませんか。

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 4月10日(木)午前10時30分~
 会場 湘南とつかYMCA 4階404教室
 テーマ 聖書を楽しく学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)

参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 ymsports@yokohamaymca.org

○聖書を一緒に学んでみませんか。

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 4月15日(火)午前10時~11時、
 ②30日(水)午後1時30分~2時30分

会場 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 問合せ 横浜子育てサポートシステム中区支部事務局 Tel 045-663-0676

■プレママ・パパDAY

日時 4月22日(火)午前10時~11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 タッチケア体験とおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

採用説明会

■2026年卒 総合職採用説明会

日時 4月19日(土)、午前10時~正午
 会場 横浜中央YMCA
 内容 採用説明会
 申込み マイナビ2026にてお申し込みください。
 問合せ 横浜YMCA本部事務局 人事・採用 Tel 045-662-3721
 ○不明な点はお問い合わせください。

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日時 4月12日(土)・19日(土)午前10時~午後2時~
 内容 オープンキャンパス

申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441

■横浜YMCAスポーツ専門学校

日時 【学校・入試説明会】4月12日(土)・19日(土)午前10時30分~/午後2時~・26日(土)午前10時~説明会&サッカー説明会。午後2時~説明会&トレーニング体験。

申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-864-4990

■横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科学学校説明会

日時 4月19日(土)午前9時50分~12時
 内容 学校説明会
 申込み Tel 045-661-0080 詳細はHPまたはQRコードをご覧ください。

ご都合が合わない場合はご相談ください。
 gakuin-ji@yokohama_ymca.org

○各校、個別相談や見学も受け付けています。

ボランティア情報

横浜YMCAでは「ユースリーダー」(指導者)を募集しています。みなさんの個性を活かした活動をYMCAで行ってみませんか。詳細は各YMCAへ。

ボッチャを楽しもう！みどりクラブ

3月3日に行われた第26回みどりクラブでは「ボッチャを楽しもう！」を行いました。
 初めてボッチャに挑戦する参加者もあり、デモンストレーションゲームを行った後、ゲームを楽しみました。会場の十日市場地域ケアプラザには雛人形が飾られ、参加者たちはひな祭りの伝統的な色合いの料理を味わいながら日本文化を学びました。最後に、口の中のそしゃくに関わる筋肉を鍛え、消化と血流を改善し、若返りに効果がある舌を使ったエクササイズに取り組みました。



3.11をわすれない...東日本大震災復興支援募金 鶴見地域で街頭募金

3月6日に、JR鶴見駅東口前にて鶴見区にある鶴見中央YMCA、YMCA鶴見ライフサポートセンター、生麦地域ケアプラザ(指定管理者)、日本キリスト教会鶴見教会、YMCAつるみ保育園の子どもたちが合同で「3.11をわすれない...」東日本大震災復興支援のための街頭募金を実施しました。3.11東北応援ソング「花が咲く」を楽器の演奏にあわせて、歌唱しながら、募金の呼びかけを行いました。子どもたちの元気な声に、多くの方々を足をとめて募金に協力くださり25,100円の募金が寄せられました。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。



▲光州YMCAとの少年サッカー交流開始(1978年)



私は、1996年から定年までの23年間、YMCA健康福祉専門学校(厚木YMCA)の非常勤講師として「レクリエーション」高年齢者体育の科目を担当し、2002年から開設した横浜YMCA学院専門学校作業療法科の非常勤講師も定年まで17年務めました。その間、楽しく学生の皆さんと授業を通して関わることができました。2004年からは、厚木YMCA運営委員と声をかけていただき、現在は運営委員長を担っています。2005年1月に厚木YMCAを迎えました。このほか横浜YMCA青少年指導者養成基金委員やYMCAあつぎ保育園ホサナにて月に一度、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。ユースを育む支援や地域の子どもの成長に関わることができ、うれしく思っています。YMCAは私の人生に二つの大きな影響を与えてくれました。一つ目は働きながらYMCAの理念や精神について学ぶことができ、取り組みに活かせることです。二つ目はワイズメンズクラブ国際協会に入会し、日本大会や国際・アジア太平洋地域大会にも参加でき、多文化

・国際交流の時を持ち視野が広がりました。YMCAの関わりを通して他者の役に立てることのうれしさを感じられること、私を必要としてくださること、居場所ができたこと、また他者の良いところがよく見えるようになり、それを本人にも伝えることができるようになり、新しい自分に気づき、自分のことが好きになりました。

これからの地域や社会は、少子化と超高齢化で働き手が減少していきます。その解消のためにAIやロボット化が発展して、人とのつながりがさらに希薄化されるように思います。多くの人にYMCAで出会いと体験・交流を通して多様な考え方に触れ、自分自身が変化・変容していく経験をしてもらいたいと思います。そのことがYMCAブランドスローガン「見つかる。つながる。よくなっていく。」を感じられるのだと私の経験から思います。そのためには、YMCAのリーダー活動は良い機会になると思います。また人を大切に、笑顔であいさつができること、良いと思います。小さな平和と大きな平和に、住みよい町から社会につながると思っています。

厚木YMCAは40周年を迎えることができました。これからも地域や社会に必要な働きを進めていきたいと思います。

My Y Story

183

YMCAでの多くの出会いを通して
 新しい自分に出会い自分を好きに
 厚木YMCA運営委員長
 横浜YMCA青少年指導者養成基金委員
 佐藤 節子



▲専門学校やリーダーの卒業生、ワイズメンズクラブの方たちと(前列右から3人目)厚木YMCA40周年/2024年2月24日)